

# 商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2023年9月調査結果-

## 調査概要

- 調査期間 2023年9月8日～9月30日
- 調査対象 200社
- 回答企業 135社
- 回収率 67.5%

### ※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

## 旭川市概況

※全産業の9月の状況を見ると業況DIは、前月より0.6ポイント改善の▲14.0となった。

2017年9月以来73ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲17.8、当月と比べ3.8ポイントの悪化が見込まれる。

## 旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2023年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 2023年10月～ 2023年12月
業況	▲18.8	▲20.2	▲19.4	▲16.0	▲14.6	▲14.0	▲17.8
売上	5.3	8.5	2.2	4.6	5.1	▲0.7	▲7.4
採算	▲21.0	▲20.9	▲17.9	▲17.6	▲18.2	▲12.6	▲18.5
仕入単価	▲68.4	▲67.4	▲67.1	▲65.6	▲69.3	▲63.7	▲51.1
販売単価	28.6	31.8	32.8	30.5	33.6	27.5	16.3
従業員	33.1	29.4	32.8	34.3	35.0	34.8	37.8
資金繰り	▲7.5	▲10.1	▲11.9	▲6.9	▲9.5	▲9.6	▲12.6

## 旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2023年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 2023年10月～ 2023年12月
建設	▲20.7	▲39.3	▲35.7	▲26.7	▲21.8	▲33.3	▲27.2
製造	▲20.0	▲23.4	▲25.8	▲13.8	▲15.7	▲3.5	▲7.2
卸売	▲9.4	▲10.0	▲9.7	▲3.1	▲10.8	▲10.0	▲20.0
小売	▲4.4	▲14.3	▲22.7	▲33.3	▲18.2	▲19.1	▲19.0
サービス	▲47.3	▲10.0	0.0	▲5.3	▲4.3	0.0	▲13.1

## 今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

<p>建設業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間大型工事は札幌南口開発と同様、コストの再試算で延期や中止が増えるだろう。来年の受注見通しははかなり厳しくなると想定している。（総合工事）</li> <li>・首相より成長の成果である税収増を国民に適切還元する経済対策を10月末までにまとめる旨の発表があり、落ち込みが激しい業界にとって歓迎すべきものである。個人消費や住宅投資が上向くほどの10兆円を超える経済対策を切に望む。（設備・その他）</li> <li>・社員退職後の補充が不調であり、大工をはじめ設計・営業など全てのセクションで人員不足となっている。新卒2名を採用予定であるが、戦力の低下は避けられず住宅施行・顧客対応で当面厳しい状況となることが予想される。建築資材の高騰は落ち着きを取り戻してきたが、物価高による実質賃金の低下により住宅新築の1つの要素である資金計画(ローン返済)に対する不安が払拭されずなかなか契約に結び付かないのが実状である。（建築業）</li> </ul>
<p>製造業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物の収穫が終盤を迎えているが、猛暑の影響で例年の半分くらいの収穫量になりそう。ただ、取引先から発注量が多く、調整して理解願うばかりである。今後加工品で売上を伸ばしたい。（食料品）</li> <li>・募集しても反応が無く、人材不足で困っている。（印刷・出版）</li> <li>・コロナ前の業績には、ほど遠い状況で推移している。リーマンショック時も事業回復まで相当の年数を要していることから、事業の改善等相当の覚悟が必要と思われる。（家具・木材）</li> <li>・エネルギー価格等のコスト増加、最低賃金や時間外割増賃金率の引上げ。（金属窯業他）</li> </ul>
<p>卸売業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原材料高・輸送コスト上昇・円安が続き、輸入製品の価格の高騰により厳しい販売を強いられている。また、繁忙期ながらインボイス制度への対応もあり、様々な負担が増えている。（繊維・衣服等）</li> <li>・中国への輸出水産物停止を受け、様々な水産物の価格下落が予想される。市中(消費地)での相場下げにより、手持ち在庫に含み損が発生する可能性があるため、向こう3ヶ月は厳しいと予想。（飲食料品）</li> <li>・車輛(重機等)燃料費が高騰しており、冬季の需要期を迎え更なる価格の高騰を懸念する。（機械鋼材）</li> <li>・当月の業績について、前年同期と比べ微減に推移している。今後の見通しについて、公共団体との案件等一定の成果が表れることもあり、徐々に回復するものと思われる。来年度に向け新規顧客の開拓を中心とした営業体制の見直しを行っている。（その他）</li> </ul>
<p>小売業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月になり秋物商品が店頭に揃ったが残暑の為、来店客が増える兆しが見えない。毎年2月・8月は季節の変わり目だったが、9月に入っても気温が高いため秋物商品の需要が無い。売上が大変厳しい状況。（衣服身回品）</li> <li>・原材料等の高騰分・商品値上げで均衡を保ち利益確保。人手不足が解消ならず、今秋の最低賃金引上げにより経費増加。今後、賃上げ圧力が強く人材確保・人件費上昇が課題となる。観光地の人流活性化で土産店の売上好調のため当面は増収増益傾向が見込める。数年前のコロナ禍での大幅減収の中、設備投資できなかったことで機械更新等必要な案件が多い。（食料品）</li> <li>・政府補助金の延長で燃料油小売価格が値上がりから下落傾向に転じた。節約ムードの緩和に繋がれば幸い。暖冬傾向と価格高止まりで灯油の出荷が鈍い。（その他）</li> <li>・今月は、既存ユーザーの買い替え等で前年よりは売上・利益も増えたが、仕入価格も上昇してきているため、今後は予想が難しいと判断している。（自動車）</li> </ul>
<p>サービス業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブラン販売が良好で売上は好調。一方、飲料スタッフ募集が追いついてこない。全体的に人員不足が否めない。（理美容・クリーニング）</li> <li>・インバウンドなどの旅行客の増加は良かったが、消耗品やエネルギー費の増加が顕著。従業員の不足がある。（ホテル・旅館）</li> <li>・DX関連技術による働き方改革を推進させ生産性とワークライフバランスの向上を図り、若年入職者不足を打開したい。（その他）</li> <li>・観光客が多く来店される様になり、売上は上昇だが仕入価格の上昇と最低賃金の引き上げなど利益の減少が見込まれる。（飲食）</li> <li>・足元の業績は収入面で回復基調であっても、人手不足と燃料・部品資材・電気代等の高騰で経費増。金融機関への返済資金の捻出もままならない状況下であり、事業縮小も視野に入れた計画に変更していかざるを得ない。秋の観光シーズンや降雪以降冬の多客時に対応できるか不安。（運送）</li> </ul>

## 旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI3.6 ポイント改善、採算 DI4.2 ポイント改善、仕入単価 DI5.3 ポイント改善、販売単価 DI6.8 ポイント悪化、資金 DI2.8 ポイント悪化、従業員 DI1.4 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 11.5 ポイント悪化となった。業種別では、総合工事 7 ポイント、設備・その他 9 ポイント、建築業 16 ポイント悪化となった。資機材単価及び燃料・電気代等の価格高騰により利益を圧迫しているとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI5.4 ポイント改善、採算 DI11.7 ポイント改善、仕入単価 DI1.7 ポイント改善、販売単価 DI0.8 ポイント悪化、資金 DI6.7 ポイント改善、従業員 DI0.5 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 12.2 ポイント改善となった。業種別では、食料品 25 ポイント、家具・木材 13 ポイント悪化、印刷・出版 20 ポイント、金属窯業他 58 ポイント改善となった。最低賃金の増加により、扶養内パート・アルバイトの労働時間が減り新たな求人の必要性が上がったとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI6.0 ポイント悪化、採算 DI4.1 ポイント改善、仕入単価 DI0.7 ポイント改善、販売単価 DI9.3 ポイント悪化、資金 DI0.5 ポイント改善、従業員 DI4.7 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 0.8 ポイント改善となった。業種別では、食料品 22 ポイント悪化、機械鋼材横ばい、繊維・衣服等 20 ポイント、その他 13 ポイント改善となった。消費税インボイス制度への対応が必要な帳票の精査と、それに伴うデータのフォーマット変更を行うとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI37.0 ポイント悪化、採算 DI0.8 ポイント悪化、仕入単価 DI15.4 ポイント改善、販売単価 DI26.6 ポイント悪化、資金 DI4.0 ポイント改善、従業員 DI1.5 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 0.9 ポイント悪化となった。業種別では、その他 5 ポイント改善、衣料品、自動車横ばい、食料品 17 ポイント悪化となった。政府の補助金延長により、年内は多少仕入・販売価格の安定は予想できるが、廉売店の安値に翻弄されず適正な価格設定と需要家様への丁寧な説明が最重要であるとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI 横ばい、採算 DI8.7 ポイント改善、仕入単価 DI8.7 ポイント改善、販売単価 DI13.1 ポイント改善、資金 DI8.6 ポイント悪化、従業員 DI4.3 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 4.3 ポイント改善となった。業種別では、飲食 20 ポイント悪化、整備業、運送横ばい、理美容・クリーニング 50 ポイント、ホテル・旅館 20 ポイント、その他 25 ポイント改善となった。4 月以降の価格改定に伴い売上は増加。業界市場は減少のため接客の見直しや販路拡大に向けて着手しているとの声も寄せられている。</p>